

三笠霊苑 新春元旦祭 御案内

新年を迎えて

平成二十三年の新年を無事迎えることができます事は、皆々様の温かいご支援と御協力の賜物と職員一同心より厚く御礼申し上げます。

三笠霊苑は、本年度開苑四十七周年を迎えます。半世紀近く皆様の大切なご先祖様をお祀りする、心の拠り所として在り続けられたのも、皆様方の御信仰心はもとより、ご先祖様の御守護の賜物と感謝申し上げます。ご先祖様をお祀りする心の拠り所としての霊苑には、節目の年はあっても終わりはございません。千年、万年と続くようにと願いを込め、職員一同取組んで参ります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

日時

平成二十三年一月二日(元日)
午前0時より

場所

三笠霊苑本堂於



第一部 元旦祭

新たな年を迎え、社会の平和と三笠霊苑各家御先祖様のご供養とご家族の幸福を祈って法要をつとめます。

法要の後に、霊苑住職の法話があります。是非ご家族お揃いでご参拝下さい。

第二部 月例祭

月例祭は、毎月一日に当月の祥月命日にあたる御仏(神)様をご一緒にご供養いたします。一月度は元旦祭に引き続いて執り行います。

○灯明供養

大みそかの除夜の鐘と共に参道の両側に並ぶ灯籠に灯りが点火されます。

○霊苑入口の本堂前で、温かいお飲み物のご用意も致しております。



『新年の初詣は、

ご先祖様のお墓参りから』

毎年、年末年始になると、大勢の方がお墓参りにお見えになられます。

お正月とは、歳神様(ご先祖の御霊)をお迎えする行事で、歳神様のお陰で、一家が一年を無事に過ごせたことに感謝し、また新しい年も幸福に過ごせるようにお祈りするためのものと言われています。

年末になると、ご自宅の大掃除と同じで、お墓をいつもより念入りにお掃除され、ご先祖様に一年のお礼・ご報告をなさり新年をお迎えされる準備を。

そして、年が明けましたら、御家族・御親族の皆様で新年のご挨拶と新しい年の無事を、ご先祖様へお願いにお参り下さい。

今の自分が在るのはご先祖様のお陰であると感謝をし、先ずご先祖様へのお参りをお済まし頂いてから、新年の行事へとお運び頂ければと存じます。

三笠霊苑では、皆様のお越しを

除夜よりお待ち致しております。

また、新年が明けましたと同時に本堂において『元旦祭』を執

り行わせて頂きます。多数のご

来苑をお待ち申し上げます。



「浮見堂」

写真提供・奈良市観光協会

三笠霊苑

苑主 西本三良



迎春

平成二十三年辛卯（かのと・う）の新年を迎えあけましておめでとうございます。

心から新年の御祝辞を申し上げますとともに、本年一年の皆様方のご健康と御繁栄をお祈り申し上げます。

尚、誌上を通してではございますが、本年も又こうして御挨拶の出来ますことに、心より感謝を申し上げますとともに、今日こうして生かして頂いていることに深い感激を覚えております。

皆様方にとって、この一年はいかがでしたでしょうか。とても充実し、実りのある一年を過ごされた方もおられれば、やり残したことや、悔いの残る一年を過ごされた方もおられる事でしょう。いずれにせよ、過ぎた一年には違いありません。良かった方は奢ることなく尚一層の精進を。また、不満足だった方は、今度は悔いの残らない一年を過ごせるように、新年に向けて新たな心・目標を持ってスタートしたいものです。

平城遷都一三〇〇年祭

奈良県内で開催された平城遷都一三〇〇年祭（主催 ㈱平城遷都一三〇〇年記念事業協会）は

全国各地から大勢の方々が奈良に来られ、大変賑やかな一年でありました。

記念式典は十月八日メイン会場である平城旧跡の第一次大極殿前庭で、天皇・皇后両陛下のご出席のもと盛大に開催されました。

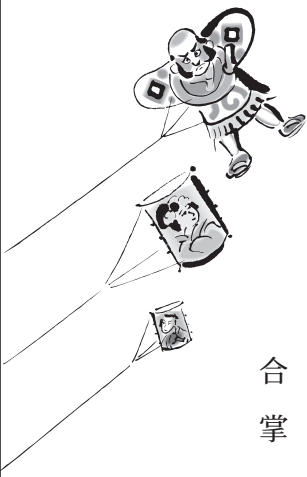
記念式典で天皇陛下は「平城京は私の父祖の地としての深いゆかりを感じています。わが国の古くから伝わる文化を守り育ててきた奈良の人々の幸せを祈ります。」と、述べられました。

奈良に都が定められて「平城京」ができたのは七百年（和銅三年）のことです。それから数えて千三百年もの長い間、奈良は日本人の心のふる里として愛されてきました。特に奈良には多くの文化財があり、現代の人々を楽しませてくれます。その祖先の遺産を大切にするとともに感謝しなければなりません。自然を愛した祖先の人々の豊かな心は、私たちに受け継がれているはずです。

過ぎゆく年。新たな年。年の節目を迎えるに当たり、本年も日々ご先祖様を敬い、報恩感謝の誠を捧げましょう。

最後に重ねて皆様方ご一家のご健勝と御繁栄を心より祈念いたしました年頭の御挨拶と致します。

合掌



霊苑たより

いつになく、例年の年の瀬より暖かい日が続いています。お蔭様で、当苑も昭和四十年の開苑より四十六年を迎えることが出来ました。皆様の親を思う心の積み重ねを、折々感じさせて頂いた年でありました。

また、全国放送のテレビ番組等で、随分特集を放送され、多数の方が観光に訪れられた「平城遷都一三〇〇年祭」も、フィナーレを迎えられました。

当苑が開設された昭和四十年頃は、戦後の復興もようやく終わり、戦争で中止されていた大阪万博を控えて奈良の地の観光や荒れ果てていた大寺院の復元が整う端緒の時期でした。

年末の宵、街灯も無く、国鉄のディーゼル列車の窓の灯りだけが暗闇の中を動いている。

当時霊苑の最上部から見た奈良盆地の景色は、今も子ども心に残っています。

開苑してからの歲月、幾星霜。多くの方を見送り、迎え入れてまいりました。

今も、霊苑創生の期よりの皆様は生きていらっしやるように我が心に刻まれております。

奈良の街の変わらぬ有様。そして新たに見出された姿を拝見しながら、少しでもお祀りさせて頂いております皆様の心に添いたいと、決意を新たに新年の祈念として申し上げます。

合掌

（霊苑副苑主 西本隆一）

十王信仰と十三仏信仰

お正月には神社・仏閣にお参りされる方も多くおられます。色々なお願いをされる事と思いますが、お願いされます時に自分が今在ることの感謝の思いをもってお参りされて居られる事でしょう。

私達は、先祖様に対して・亡くなった方々に対して、色々なお祀りをしています。今回は、仏教の法要について考えてみました。

インドでは亡くなった人の供養のため、亡くなった日から七日目ごとに七回の法要が営まれました。四十九日が過ぎると亡くなった人は、地球上のどこかに生まれ変わると考えられていました。

人が亡くなってから、次に生まれ変わるまでの世界を中有(ちゅうう)または中陰(ちゅういん)といいます。

中国に渡り道教・儒教の影響を受け、亡くなった人が行く世界で六道の世界(天道・人道・修羅道・畜生道・餓鬼道・地獄道)のどこかに行くことを十人の王が審理して判決を下します。

審理は普通七回行われます。初七日から七七日まで七人の王が一回ずつ担当します。

ただし、各審理で問題が無いと判断された場合、次の審理に回ることなく生まれ変わって行きます。

十王信仰では七人の王の他に、三人の王を配しています。

七回で決まらない場合でも六道のどこかに行くのですが、中国に渡ってから三回の審理が追加されました。

もしも地獄道・餓鬼道・畜生道の三悪道に落ちたとしても助けるために、追加の審理が行なわれます。修羅道・人道・天道にいたなら徳が積まれます。これ

は、審理のたびに法要を行うことで、十王に対し、亡くなった人の滅罪を願う追加の三回の法要で、救い損ないを無くすという考えから十王信仰が広まったのでしよう。

さらに、日本に伝わり十人の諸王に対し審理のときに本地垂迹の思想(仏様が人々を救うため神様に姿を借りて現れること)が入り、弁護をする十の諸尊が加わりました。

さらに亡くなった人の追善のために、三回の追加審理を行う三尊の仏様を付け加えて十三仏信仰が生まれました。

平安時代には三回忌までの法要が営まれていたのが室町時代に入り七回忌・十三回忌・三十三回忌を加え十三仏信仰が盛んに成ったようです。表にまとめてみましたので、御参考に御覧下さい。

供養の日	本地仏	諸王
初七日	不動明王	秦広王(しんこうおう)
二七日	釈迦如来	初江王(しよこうおう)
三七日	文殊菩薩	宋帝王(そうだいおう)
四七日	普賢菩薩	五官王(ごかんおう)
五七日	地藏菩薩	閻魔王(えんまおう)
六七日	弥勒菩薩	変成王(へんせいおう)
七七日	薬師如来	泰山王(たいざんおう)
百箇日	観世音菩薩	平等王(びやうどうおう)
一周忌	勢至菩薩	都市王(としおう)
三回忌	阿弥陀如来	五道転輪王(ごどうてんりんおう)
七回忌	阿閼如来	蓮華王(れんげおう)
十三回忌	大日如来	祇園王(ぎおんおう)
三十三回忌	虚空蔵菩薩	法界王(ほうかいおう)



年回表

平成二十三年(辛卯) かのとう

一周忌	平成二十二年亡
三回忌	平成二十一年亡
七回忌	平成十七年亡
十三回忌	平成十一年亡
十七回忌	平成七年亡
二十三回忌	平成元年亡
二十五回忌	昭和六十二年亡
二十七回忌	昭和六十年亡
三十三回忌	昭和五十四年亡
三十七回忌	昭和五十年亡
四十三回忌	昭和四十四年亡
四十七回忌	昭和四十年亡
五十回忌	昭和三十七年亡
七十回忌	昭和十七年亡
百回忌	大正元年亡
百五十回忌	文久二年亡
二百回忌	文化九年亡

月例祭(朔日参) ついたちまいり

毎月一日
午前11時〜12時
但、元旦祭は
午前0時より

三笠霊苑本堂

家運隆昌は

陰徳積みの
霊苑清掃から
毎月第2日曜
午前10時〜12時

三笠霊苑積善会

平成二十三年年度 霊苑の年間行事

一月	一日 元旦祭・月例祭 (午前〇時) 本堂 九日 積善会 (午前十時) 参道・合祀段
二月	一日 月例祭 (午前十一時) 本堂 十三日 積善会 (午前十時) 参道・合祀段
三月	一日 月例祭 (午前十一時) 本堂 十三日 積善会 (午前十時) 参道・合祀段 二十日 彼岸大法要 ※1 (午前十時・午後二時)
四月	一日 月例祭 (午前十一時) 本堂 十日 積善会 (午前十時) 参道・合祀段
五月	一日 月例祭 (午前十一時) 本堂 八日 積善会 (午前十時) 参道・合祀段
六月	一日 月例祭 (午前十一時) 本堂 十二日 積善会 (午前十時) 参道・合祀段
七月	一日 月例祭 (午前十一時) 本堂 十日 積善会 (午前十時) 参道・合祀段
八月	一日 月例祭 (午前十一時) 本堂 十四日 積善会 (午前十時) 参道・合祀段 十三日・十五日 お盆 ※2 (午後四時) 千体地藏前

九月	一日 月例祭 (午前十一時) 本堂 十一日 積善会 (午前十時) 参道・合祀段 二十三日 彼岸大法要 ※3 (午前十時・午後二時)
十月	一日 月例祭 (午前十一時) 本堂 九日 積善会 (午前十時) 参道・合祀段
十一月	一日 月例祭 (午前十一時) 本堂 十三日 積善会 (午前十時) 参道・合祀段
十二月	一日 月例祭 (午前十一時) 本堂 十一日 積善会 (午前十時) 参道・合祀段

※1・3 日程に関しては変更になる場合があります。直前の会報誌で再度ご確認頂きますようお願い致します。

積善会へのお誘い

人という字は、寄り添い・支え合い・助け合いという意味の例えとして世の中では幅広く使われています。しかしながら今の世の中は、外国から色んな生活様式や考え方が入り込み、わが国で昔から伝わる良い習慣等が薄れてきたように感じます。

昔ながらの一家団欒での食事等も少なくなり、一緒に暮らす家族の顔色すら分からないことも良く聞く話です。

お墓参りをなさった後、「ほっとする」という言葉を良く聞きます。ご先祖様と向かい合い、手を合わせることで心の余裕が生まれるからではないでしょうか。ご先祖様とのつながり、家族とのつながりを感じて

頂ければと思います。

三笠霊苑では、毎月第二日曜日の十時頃より十二時半頃まで、ご自分の心に陰徳を積むという主旨で皆様にお集まりいただき、簡単な苑内清掃をして頂きます。その後、皆様でお話と軽い会食で親睦を深めていただく会でございます。ご参加を自由で、一度参加いただきましても必ず毎月参加しないといけないという意味合いのものでは御座いませぬので、お時間の許す時に一度、お墓参りとあわせてご参加ください。

(陰徳とは、人に見られる見られない、知られる知られないに関わらず積まれる徳「布施」とも言われます)

尚、ご参加ご希望の方はお手数ですが、前日までに管理事務所へお知らせ頂ければ幸いです。(電話 074212212911 黒田まで)

墓地のご案内

新規墓地の申込受付中

ご親類・ご縁者様・お知り合いの方で墓地をお探しの方がおられましたら、是非お勧め、ご紹介ください。区画数に限りがございますが職員がご案内・ご説明させていただきます。詳しくは、霊苑教務部までお尋ねください。

三笠霊苑

国際教化教会

千六三〇一八二〇一
奈良市川上町六〇一番地
電話 (〇七四二) 二二二九一一
FAX (〇七四二) 二二二七一一
<http://www.mikasareien.jp>